

JR 四国乗り尽くし

中一 新川 航平

【はじめに】

私の祖父の家は香川県の高松にある。そこによく行くので、四国の鉄道によく乗る。今年の8月にサンライズ瀬戸のシングルで四国に行った。旅行4日目には四国の鉄道旅行に行った。きっぷはJR四国の特急、快速、普通の自由席が5日間乗り放題の周遊きっぷを使った。今回のルートは、高松を出て、松山、伊予市、伊予長浜、伊予大洲、宇和島(愛媛県)、窪川(高知県)、高知、高松という長旅だ。これで今までの旅行と合わせ、JR四国をすべて乗り尽くす。早速、その旅の様子を紹介しよう。

【旅行当日】

8月3日の05時10分、高松駅には列車は2~3本しか止まっていない。高松駅8番のりばには快速マリンライナー6両が、7番のりばには2000系気動車の特急いしづち1号が4両編成で止まっていた。このいしづち1号宇和島行きは、予讃線伊予長浜方面の列車には連絡しない。06時02分発のいしづち3号8000系に乗った。これに乗ると松山で35分の連絡で伊予長浜回り普通列車宇和島行きに乗り換えられる。松山からは全て気動車だ。この特急いしづち3号は5両編成で、別の時間には2両しか自由席はないが、朝早いので自由席は4両もある。そのため、普段指定席の車両も自由席扱いとなっている。また、普段指定席の車両は、リニューアルされているため、乗り心地がいいので、その車両に乗った。しばらくすると、進行方向右手には、真っ青な瀬戸内海が見えたてきた。



左上から 案内表示 高松駅にて	特急いしづち 8000系
8000系 指定席	8000系 自由席

松山に着き、KIOSKでおにぎりを買っていると、1番のりばの宇和島寄りから、3両の8000系電車

が入線し、5両の8000系電車と連結した。次の列車が出る3番のりばへ向かうと、目の前の車庫にディーゼルエンジンを回している1両のキハ54系が止まっていた。その手前の3番のりばを、2両の2000系試作車「TSE」が通過した。そして留置線に止まった後、1番のりばの宇和島寄りに、入線してきた。今、1番ホームの今治寄りには8000系のしおかぜ・いしづちが、宇和島寄りには2両の2000系試作車の宇和海3号が止まっている。せっかくなので、宇和海で特急1駅先の伊予市まで乗った。この列車は、1号車と3号車の2両で、2号車はなかった。



2000系試作車 TSE 特急宇和海3号 松山にて

伊予市駅の3番のりばには、キハ32系普通列車が1両止まっている。それに乗り、1駅先の向井原(愛媛県)まで乗った。特急は1本も止まらない駅だが、すごく賑わっていた。そして少し待つと、松山で見たキハ54系の普通列車が来た。これに乗り、海沿いを走って、伊予大洲に向かった。



キハ32系気動車 向井原にて

伊予大洲では約10分で宇和島行き特急宇和海5号2000系に連絡し、宇和島に向かう。途中の八幡浜で改札の方を見ると、看板に<のりかえ 別府連絡>と書いてある。八幡浜と別府の何があるのかと思ったら、船で行くと近距離だということだった。



宇和島では、2 分の連絡で窪川行き普通列車、四万十トロッコ号に乗り換え、四万十川沿いに、高知県の窪川にののろ向かう。きれいな四万十川だった。特急との接続の関係か、途中の土佐大正でトロッコ車両への乗車は終了した。土佐大正からは、普通の特急型車両に乗りかえた。列車は高速で窪川に向かった。



四万十トロッコ 宇和島にて

中から見た四万十川

窪川駅では 10 分で、岡山行き特急南風 20 号に連絡し、高知へ向かう。途中の須崎(高知県)では、特急あしずり号とすれ違った。この特急は、一日 2 片道しかない。高知で、連結した高知始発の高松行き特急しまんと 4 号に乗り換えた。一番前の見晴らしのよい席に座れた。途中の大歩危・小歩危峡は、大股で歩いても、小股で歩いても危ないということから名付けられたという土讃線で最も景色がきれいな所である。また坪尻駅は、スイッチバックの駅だった。宇多津駅で、南風と別れ、しまんと 4 号は高松に 17 時 21 分、無事着いた。



特急しまんと 4 号 N2000 系

小歩危峡



スイッチバックの坪尻駅

【おわりに】

今回の旅行で、電車の遅れや運休を覚悟していたが、まったくなかったのが、すごく良かった。しかし、写真や動画の撮りすぎで、ケータイの電池が、高松駅で切れてしまった・・・。

ご覧いただきありがとうございました。



2000系気動車 岡山行き特急南風20号 窪川にて